城北まちづくり通信

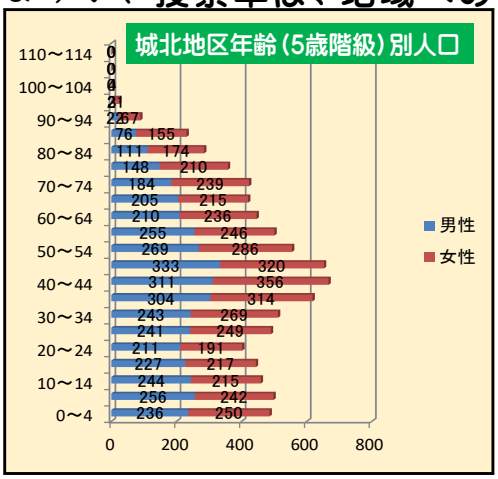
2022/3/17
３２号
城北まちづくり協議会
事務局：城北地区公民館

みんなで地域に関わり、身近な問題を自分事として考える「まちづくり」

任期満了に伴う鳥取市長選挙（3月27日投開票）が実施されます。
実は、**城北地区の課題の一つが、地方選挙の投票率の低さです。**

平成30年の市長選挙の投票率は、城北地区は**27,05％**（市：31,58％）でした。市の年代別投票率は、**20歳～40歳は19,18％**でした。市議会選挙（H,30）結果も、同じ傾向を示しています。昭和20年代は80％前後で推移していた数字です。

全国的に、“若者の政治離れ”が叫ばれ、要因は種々あることは承知していますが、**投票率は、地域への「関わり度」を示す数字として捉えることもできます。**



地域と関わり、身近な問題を自分事として考えることが、一番身近な地方選挙に関心を持つ原点だからです。

一般的に、地方選挙の場合、政策よりも地域から立候補していることや、候補者個人との関係性に重きをおいて投票される傾向があります。地域との「関わり度」が低い住民は、地方選挙への関心を持ちにくく、投票率の低さに現れると言われています。

その意味では、城北地区の投票率の低さは、住民が地域との関わりを持ちにくくなってきている“地域活動のあり方”そのものに起因すると考えられます。

これまで、**「元気で楽しく 心地よく 住んでよかったと実感できる城北！」**の実現を目指して、地域行事や活動を事業化して、“まちづくり”を進めてきました。

しかし、運営が“一部の住民の、能動的な参加を前提として進められていなかったか？”・“誰もが運営に、気楽に関われる仕組みになっていたのか？”といった観点から、一度立ち止まって考える必要性を感じます。

■住民の「関わり度」が低くなる　**《負の連鎖》**
⇒地域活動が普段「関わる者」(常連)を中心に展開される⇒
⇒顔見知りが少ないので、活動の輪に入りにくい⇒
⇒活動への関心がさらに薄れる⇒　負のスパイラル(連鎖)が起きる

地方選挙の投票率は、“まちづくり”（各種団体等の運営）への、住民の「関わり度」を示すバロメーターの役割を果たすからです。

ところで、**投票することが“まちづくり”や、自治体の政治に関心を持つ原点だとも言われています。**

投票した政治家の、その後の“まちづくり政策”を自分事として見届ける契機になるからです。また、**地域の投票率の高さは、有権者を意識した政策を推し進める政治家の原動力にもなります。**（行政と地域が協働することで、地域課題が解決され、暮らしがよりよくなります。）

2016年、公職選挙法が改正され「子連れ投票」（18歳未満）が可能になりました。「子連れ投票」を経験した子どもの多くが、大人になってからも投票に行くようになるという研究結果があります。子ども達の未来のためにも**「子連れ投票」をされてみてはいかがでしょう。**

回覧では、「城北まちづくり通信」・「城北防災だより」等を、昼間働いていると、ゆっくり読むことが出来ないという意見を承りました。
城北地区公民館の　ホームページ上に掲載しています。印刷物（回覧文書）と比べ、鮮明ですし、24時間365日、何時でも、何度でもカラーで見やすくなっています。　【城北地区公民館】 http://chiiki.city.tottori.tottori.jp/johoku-1/　QRコード